

本校では3年生で和菓子を、4年生で加賀友禅を学ぶ。3年生では金沢市が15年以上も連続で和菓子消費額全国1位であるということや、校区にたくさんの和菓子屋があることから金沢の人々の生活に根付く和菓子・おもてなしの心について知った。それと同時に和菓子の消費額が年々減っていることから和菓子文化を大切にしたいという思いを持ち、自分たちが和菓子のよさを家庭や地域の人・観光客などに発信した。4年生では校区にたくさんの友禅作家が住むことを知り、加賀友禅に興味を持ち、調べたり、作品を作ったりする中で地域の伝統文化に親しみを感じ、加賀友禅の継承の為に金沢の一員として自分ができるところを考え、観光客に良さを発信した。

② 地域の環境資源に係わる活動

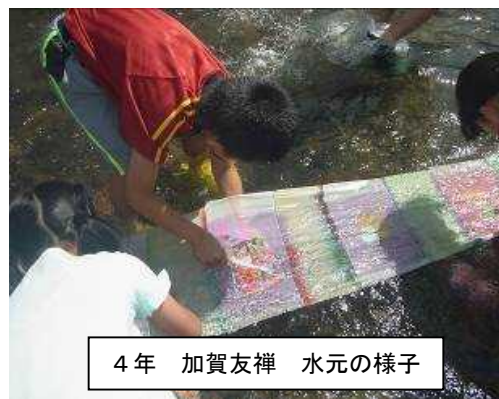
本校の校区には浅野川が流れている。川が近くにあるということ、4年時には加賀友禅燈籠流しを経験していることから浅野川を身近に感じている児童はとても多い。そこで5年生では浅野川の実態について調べ、地域の誇れる川にしようというテーマで活動をした。浅野川の調査を進め、きれいであるが、ゴミが落ちていて改善の余地がある川だということが分かった。その後、浅野川の実態や自慢を観光客や地域、浅野川流域の学校に発信した。

③ 他者に係わり対話を通して学習する活動

旧味噌蔵町小学校から続く、姉妹校名古屋市立荒子小学校との交流の際に、金沢市の魅力を伝えることでずっと続いてきた絆を受け継ごうというテーマで6年生が活動した。これまでの体験を通して知った金沢の魅力を厳選し、取材活動を重ね、荒子小学校の修学旅行のガイドをした。交流当日に荒子小学校の児童と対話することはもちろん、事前の取材の段階で、まいどさんを含む地域の方、金沢を選んで遠方から来ている観光客とも対話することで金沢の魅力を再発見・再認識し、新たな友とのかけがえのない出会いにも喜びを感じていた。



3年 地域の和菓子屋にて



4年 加賀友禅 水元の様子



5年 浅野川の水質調査



6年 荒子小学校児童と金沢城にて

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ウェブサイト: 金沢市公式ホームページいいね金沢、石川県公式ホームページ
(兼六園・金沢城公園)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校でのユネスコスクールとしての活動は教育課程の総合的な学習の時間に位置付けている。ESD カレンダーを作成し、各教科とのつながりも明確にした上で指導内容を考えたり、指導方法を工夫したりしている。総合的な学習の時間においては児童の主体的な学びを促すために単元構成を「課題設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」→「課題設定」に戻るという連続性を意識したものにした。また ESD を通してつきたい力を明確にするために前学年にできていることやできなかったことをはっきりさせて主体的な学びができるようにした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

組織としては全体研を行い、学校研究への共通理解をはかるとともに、それぞれの活動について検討し合い、学年だけでなく組織全体で活動を捉え、それぞれの活動の参考にしている。本校では3年生から6年生にかけて、総合的な学習の時間で学んだことが継続的に続けられるように、伝統文化の和菓子から伝統という点で共通する加賀友禅へ、そして加賀友禅の灯籠流しや友禅流しの浅野川へとつなげていく。また6年生ではそれまでに学習してきたことを最大限に生かして発信の場を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

全体研究会や各学年分科会を開き、それぞれの授業指導案を検討したり、授業を参観して事後検討会を行い指導方法について検討したりした。また外部の先生方に向けて公開研究会を行い、参観者からご意見を頂いた。成果として児童が表現して終わりではなく、次の活動へと意識をつなげていけるようになった一方で、初めの課題設定が教師主導になると主体性を引き出すことが難しいということが分かった。また対話を促すために用いた思考ツールを使うことが目的になってしまっていたところもあり、視点をはっきりさせて取り組む必要があると感じた。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

3年生や4年生は学習した伝統文化についてパンフレットを作成し、観光客に向けて魅力を PR した。5年生は観光客・地域の人・浅野川流域の学校へと自分たちの学習を発信した。また6年生はこれまでの学習を生かして荒子小学校の児童に金沢を案内した。発信により得られた効果は児童に相手を意識した対話の力がついたことである。また次の活動への思いも強くなり、目的のある対話をすることで主体的に自分の考えを広げたり、比べたりできるようになった。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

6年生では姉妹校の荒子小学校の修学旅行隊をもてなすために、金沢市内の観光ガイドをすることにした。そのために、金沢市の観光ボランティアガイド「まいどさん」に実際にガイドをして頂き、そこから兼六園や金沢城公園、ひがし茶屋街、尾張町などについて取材・調べ学習をした。またガイドする側としてもガイドの仕方を学習し、まいどさんがどのようにガイドをしているかを参考に、荒子小学校との交流当日に活かすことができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

5年生では浅野川について学習し、金沢市内のユネスコ加盟小学校との交流をした。浅野川流域の7つの小学校にアンケートを実施し、浅野川に対する印象やそれぞれの思いを調査した。それをもとに自分たちのしている活動を広める必要があると考え、浅野川に関する新聞を作り、アンケートに協力してもらった各小学校に配り、新聞を読んだ後、印象や思いの変容を調査した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

年間を通して今年度は総合的な学習の時間に力を入れた。課題設定から表現へ、また新たな課題設定をするというサイクルを丁寧に繰り返すことで児童の主体的な学びにつながった。また、児童同士、地域と、観光客とというように目的をはっきりさせた対話を多く取り入れたことで、児童は生き生きと話し、深まりのある対話を行うことができるようになった。また振り返りの視点を明確にした上で振り返りを行うことで、共有していた目標をともに達成した意識を持ち、次への学びへと向かうことができた。

（３）平成 30 年度の活動計画

平成30年度の活動としては今年度の課題をクリアしていくかたちで活動をするめていきたい。まずは前年度に前学年で行っていた活動と新しい学習活動とをつなげたり、一つ上の学年から活動要請があったりするなど、学年毎に途切れるのではなく、全学年を通したつながりのある活動をしていきたい。

また対話に意味をもたせたい。話し合う内容やゴールを確認した上で思考ツールを与えるようにしたい。思考ツールを使うことが目的になるのではなく、思考ツールはあくまで児童の思考や対話の手助けとなるように取り組みたい。

最後に児童が自分の学びや成長を自覚するための振り返りについても、相互評価と自己評価を使う場面を見極めて使い分けていきたい。次の学びに向かう力を生み出す評価の在り方について考えていきたい。